

Hello

friends

2005

7

No.245

KANAGAWA
INTERNATIONAL
ASSOCIATION
NEWSLETTER

財神奈川県国際交流協会 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーだ ぱらざ）1階 ☎045-896-2626

特集

アンコール遺跡修復の現場から ～文化協力の最前線～



アンコール・ワット(写真提供：上智大学アジア人材養成研究センター)

の長い内戦によって、アンコール遺跡（皮肉にも植民地宗主国の人々によって19世紀にそれは「発見」されたのですが）を保全し、そこに息づく「文化」そのものを伝える貴重な人材が抹殺されました。そのとき「人」という「文化」の命綱が断ち切られたのでした。

「文化」の復興はそれを具体的に引き継ぐ「人」がその地に生きることで、暴力を克服することなのかもしれません。日本からは上智大学の調査団が、1980年以來、43回の派遣を通して、カンボジア王国政府と協力し、「カンボジア人による、カンボジア人のための、カンボジアの遺跡保存修復」という哲学のもと、アンコール遺跡の調査・研究・修復保存活動を続け、1991年からはカンボジア人の文化遺跡保存官候補者の現地研修・実施訓練をおこない、「人」の養成に力を注いできました（建築班は日本大学理工学部と協力）。

今回の特集では、同調査団の石澤良昭上智大学学長と、チェン・ラターさん、ニム・ソティーヴンさんにお話を伺いました。ラターさんとソティーヴンさんのお二人は、カンボジアの調査・修復の活動を経て同調査団の学位取得のため来日し、それぞれ日本大学、上智大学の大学院で学んでおられます（ラターさんは、2000年に神奈川県の海外技術研修員として来日した経験もあります。）

文化遺産の保存修復という、文化協力、国際協力活動を通して、断ち切られた文化の命脈がどのように再生しつつあるのか、そしてそのことがこの地で生きる私たちにどのような意味をもつのか、考えてみたいと思います。



アンコール・トム（写真提供：高木治恵）



上智大学アジア人材養成研究センターが修復を手がける
アンコール・ワット西参道（写真提供：同センター）



文化協力としての人材養成戦略

石澤良昭さん（上智大学学長）

●友との出会い

1960年代からカンボジアへ赴きアンコール・ワットの調査・研究に参加してきました。カンボジアでの研究活動や生活の中で、人につくすこと、自分の使命感、家族への思いやり、信仰をまとうすること…そういうことをおこなっている何人のカンボジアの友人の姿を見て私は襟を正すきっかけを与えられたと思います。フランス人の先生から「カンボジア人はダメだから自分たちがやってあげている」ということを聞かされていましたが、実際には間違いだということを確信しました。

●内戦、友人の死、そして「人育て」

70年にシハヌークさんが国家元首を解任されて内戦が始まり、75年から79年までポルポト時代になるわけです。そのとき、「仕事をいつまでも一緒にやろう」と誓い合っていた私のカンボジアの友人たちが殺されてしまったのです。1980年に生き残って「アンコール遺跡事務所」のピッ・ケオ所長から「ぜひ手伝ってくれ」という手紙が来ました。まだ内戦は続いていましたから、国際赤十字が食糧を運んでいるバンコク発の飛行機に乗せてもらってカンボジアに入りました。そのとき初めて30数名いた私の友人たちが亡くなったということを知りました。その友人たちの気持ちに応えるため、カンボジアの遺跡はカンボジア人自身が守るという原則に即して博士・修士の学位を取得した専門家を育てるプロジェクトを91年から始めました。すでに4人の博士、4名の修士が現地に戻っていますし、いまも4人の学生が日本にいます。カンボジア人学生を教えながら、彼らは、彼ら自身でやれるということがよくわかつたし、また、彼らも、日本や世界へ出て大学院で学位を取れるオリジナルな研究をする力量が自分たちにあるということに気づいてきたと思います。

●人材育成の中身

研究者として博士論文を書くにあたっては「自国研究」「自前発掘」「自前修復」という三つの命題を与えます。また、日本にいる間に専門家として通用する語学も身につけるために博士論文は汎用性の高い英語で書くように指導しています。「大学院」というカンボジアにないシステムによるストレスもあり、健全な精神状態で研究できるように生活上の助言、日本人学生とのコミュニケーション、集団生活の仕方など、文化的なフォローをおこなうことも大切です。文化遺産の保存修復は、もともとヨーロッパ発の学問です。カンボジアの発掘はまだ140年ですが、エジプトのピラミッドの発掘など、学問としては300年以上の蓄積があります。また、研究発表をするときには、ドクターでないと認められないという遺跡学会の事情があります。

■■■ ポルポト政権と文化の断絶 ■■■

1975年4月17日、ポル・ポトを中心とした極端な共産主義グループ「クメール・ルージュ」が首都プノンペンを占領し、その後1979年1月までの3年8ヶ月の間、カンボジアを支配した。都市居住者の農村への強制移動、知識人の肅清、貨幣の廃止、家族の解体など、急進的な政策を実行。200万人以上の人々が亡くなつといわれる。教育は労農・政治学級を除き、いっさい廃止。学校は閉鎖され、子どもたちは生産活動に従事した。学校が再び開始されたのは、79年9月のことだった。また、仏教などは有害な宗教として禁止され、寺院やバゴダ、キリスト教の教会やイスラームのモスクなどが爆破された。

（参考文献）岩波ブックレット NO.284 『ポル・ポト派とは？』（小倉貞男著 岩波書店）など

私たちが「博士」にこだわるのは、そういう背景があるからです。

●オリジナル、自信、文化協力

カンボジア人だから特にやれる問題ということがあります。「外国人」であるヨーロッパ人や日本人などが入れない地域に入つて自分たちの文化をちゃんと検証すること、つまりオリジナルな研究ができるということです。それが彼らの自信の源であり、90年にわたつて植民地だったカンボジア人たちが自信を取り戻す一つのきっかけになると思います。人材養成は15年の中長期計画でやつていますが、その間に生まれるであろう8人くらいのカンボジア人の博士が、後継者を養成してだんだんと育っていく。それがカンボジア人全体の自信形成につながると思います。人材養成には、絶対に時間がかかります。

●村の中にあって

確かに彼らは貧しいと言えます。年間の平均所得が270ドルですから…。日本には善意からか、「貧しさ」だけをみて「かわいそう」「なんとかしたい」と言う人がいますけれど、カンボジアの人はそれが当たり前と思っているから、そうは思わない。根本には仏教の信仰があるということなのです。人を慮る心は最終的には信仰だと思います。信仰があるから自信があつて、自信があるから人に對してやさしい気持ちに満ちあふれているのです。そうしたやさしさを私はカンボジア人と接することによって学ぶのです。こういう側面は、日本にないものです。そういうものと遺跡修復の活動というのは、最終的には結びつくものだと思います。

●新しい人

私たちの人才育成のやり方は、確かに、「日本」の教育体系の中でおこないますから、ものごとの進め方や、考え方、時間の使い方、見通しの立て方などにカンボジアの学生たちが反発を感じることもあると思います。しかし、先ほども触れたように、留学機会が与えられ、課題をこなしていくことで、内戦で断絶してしまつた人材の命脈をつなぐことができます。文化の担い手が新たに育ち、文化の断絶が埋められるためには、いま、こうした人材養成による新しい知的作業が必要だと考えています。いまもカンボジアに息づいている信仰に根ざした自信が、文化の復興の原動力となるための条件作り。文化協力とはそういうものなのかもしれません。育成されつつある人たちは、これからカンボジアの文化を担っていく人たちですから、彼らが第一線に立つて「自分たちの文化は自分たちが語る」という説得力は大きいと思います。自分たちの文化や、自分たちの研究成果を、内外に向けて誇りを持って語ってほしいと思います。（談）

カンボジア・アンコール遺跡関連年表	
1998年	アンコール遺跡関連■
1993年	アンコール王朝おこる
1992年	アンコール・ワット建設開始
1993年	アンコール地方タイ領となる
1994年	アンコール遺跡調査を開始
1995年	アンコール人アントリー・ムオーが
1996年	アンコール遺跡調査を開始
1997年	アンコール遺跡調査を開始
1998年	アンコール遺跡調査を開始
1999年	アンコール遺跡調査を開始
1999年	アンコール遺跡調査を開始
2000年	アンコール遺跡調査を開始
2001年	アンコール遺跡調査を開始
2002年	アンコール遺跡調査を開始
2003年	アンコール遺跡調査を開始
2004年	アンコール遺跡調査を開始
2005年	アンコール遺跡調査を開始
2006年	アンコール遺跡調査を開始
2007年	アンコール遺跡調査を開始
2008年	アンコール遺跡調査を開始
2009年	アンコール遺跡調査を開始
2010年	アンコール遺跡調査を開始
2011年	アンコール遺跡調査を開始
2012年	アンコール遺跡調査を開始
2013年	アンコール遺跡調査を開始
2014年	アンコール遺跡調査を開始
2015年	アンコール遺跡調査を開始
2016年	アンコール遺跡調査を開始
2017年	アンコール遺跡調査を開始
2018年	アンコール遺跡調査を開始
2019年	アンコール遺跡調査を開始
2020年	アンコール遺跡調査を開始
2021年	アンコール遺跡調査を開始
2022年	アンコール遺跡調査を開始
2023年	アンコール遺跡調査を開始
2024年	アンコール遺跡調査を開始
2025年	アンコール遺跡調査を開始
2026年	アンコール遺跡調査を開始
2027年	アンコール遺跡調査を開始
2028年	アンコール遺跡調査を開始
2029年	アンコール遺跡調査を開始
2030年	アンコール遺跡調査を開始
2031年	アンコール遺跡調査を開始
2032年	アンコール遺跡調査を開始
2033年	アンコール遺跡調査を開始
2034年	アンコール遺跡調査を開始
2035年	アンコール遺跡調査を開始
2036年	アンコール遺跡調査を開始
2037年	アンコール遺跡調査を開始
2038年	アンコール遺跡調査を開始
2039年	アンコール遺跡調査を開始
2040年	アンコール遺跡調査を開始
2041年	アンコール遺跡調査を開始
2042年	アンコール遺跡調査を開始
2043年	アンコール遺跡調査を開始
2044年	アンコール遺跡調査を開始
2045年	アンコール遺跡調査を開始
2046年	アンコール遺跡調査を開始
2047年	アンコール遺跡調査を開始
2048年	アンコール遺跡調査を開始
2049年	アンコール遺跡調査を開始
2050年	アンコール遺跡調査を開始
2051年	アンコール遺跡調査を開始
2052年	アンコール遺跡調査を開始
2053年	アンコール遺跡調査を開始
2054年	アンコール遺跡調査を開始
2055年	アンコール遺跡調査を開始
2056年	アンコール遺跡調査を開始
2057年	アンコール遺跡調査を開始
2058年	アンコール遺跡調査を開始
2059年	アンコール遺跡調査を開始
2060年	アンコール遺跡調査を開始
2061年	アンコール遺跡調査を開始
2062年	アンコール遺跡調査を開始
2063年	アンコール遺跡調査を開始
2064年	アンコール遺跡調査を開始
2065年	アンコール遺跡調査を開始
2066年	アンコール遺跡調査を開始
2067年	アンコール遺跡調査を開始
2068年	アンコール遺跡調査を開始
2069年	アンコール遺跡調査を開始
2070年	アンコール遺跡調査を開始
2071年	アンコール遺跡調査を開始
2072年	アンコール遺跡調査を開始
2073年	アンコール遺跡調査を開始
2074年	アンコール遺跡調査を開始
2075年	アンコール遺跡調査を開始
2076年	アンコール遺跡調査を開始
2077年	アンコール遺跡調査を開始
2078年	アンコール遺跡調査を開始
2079年	アンコール遺跡調査を開始
2080年	アンコール遺跡調査を開始
2081年	アンコール遺跡調査を開始
2082年	アンコール遺跡調査を開始
2083年	アンコール遺跡調査を開始
2084年	アンコール遺跡調査を開始
2085年	アンコール遺跡調査を開始
2086年	アンコール遺跡調査を開始
2087年	アンコール遺跡調査を開始
2088年	アンコール遺跡調査を開始
2089年	アンコール遺跡調査を開始
2090年	アンコール遺跡調査を開始
2091年	アンコール遺跡調査を開始
2092年	アンコール遺跡調査を開始
2093年	アンコール遺跡調査を開始
2094年	アンコール遺跡調査を開始
2095年	アンコール遺跡調査を開始
2096年	アンコール遺跡調査を開始
2097年	アンコール遺跡調査を開始
2098年	アンコール遺跡調査を開始
2099年	アンコール遺跡調査を開始
2100年	アンコール遺跡調査を開始



ソティーヴンさん(左) ラターさん(右)

人・自然・遺跡～再び紡ぎはじめた人々の願い～

チェン・ラターさん、ニム・ソティーヴンさん

(上智大学大学院)は、上智大学アンコール遺跡国際調査団(現「アジア人材養成研究センター」)で活動するカンボジア人としての視点から、文化遺産保存修復を通しての文化協力について、その想いを語ってくれた。

●村人と共に

調査団が研究・調査・保存・修復活動をする仏教寺院遺跡、バンテアイ・クデイ。調査団の呼びかけにより、近隣の村人たちが遺跡の清掃にやってくる。実は、この清掃作業が村人たちにとって、遺跡を深く理解するための重要な手がかりとなっている、とソティーヴンさんは説明する。清掃の過程で、遺跡に近づけば石材のもつ文化の重みと歴史を感じとり、一つずつ異なるレリーフを眺めては、そこに秘められた壮大なストーリーに想いをめぐらす…。それまでは生活の一場面として、そこにただあった遺跡が、本来の意味をもって生き生きと目の前に迫ってくる。「カンボジア人自身が、アンコール遺跡の存在価値を再認識し、自分たちの手で守っていくこうという内なる精神がわきあがってこそ、アンコール遺跡に新たな信仰の息吹が吹き込まれていくのです」。ソティーヴンさんは遺跡が再び人々の心に息づく可能性に、胸をときめかせながらそう話す。

●アンコール遺跡への第一歩

ポルポト時代、歴史や文化を学ぶことは禁止されていたが、ラターさんは、祖父母、両親から聞かされた遺跡にまつわる話や古い写真から、カンボジア人でありながら、まだ見たことのないアンコール遺跡への想像を膨らました。大学生になり、調査団の一員として初めてシェムリアップにやってきたとき、飛行機から見渡したアンコール・ワットの偉大さに、感動のあまり声がでなかつたと、当時を回想する。地元シェムリアップ出身のソティーヴンさんにとての遺跡は、幼少時代の格好の遊び場だった。おじの薦めで入学した考古学部で学ぶうち、次第に遺跡の魅力に取り付かれていったという。

●育まれた師弟の絆

二人が調査団で活動を始めた当初、日本とカンボジアの働き方の違いに戸惑い、言葉の壁に苦労したそうだ。先生方と意見の食い違いもあったが、お互いの想いを率直に伝え、話し合うことで、師弟関係の絆をさらに深めることができた、とラターさんは少し照れくさそうに笑みを浮かべる。

●シェムリアップの街は今

シェムリアップの街は近年観光客の増加により、都市化の一途をたどる。異文化の影響を受け、年々変化を遂げていく街・人々の姿を、シェムリアップ出身のソティーヴンさんは、深刻な面持ちで以下のように話す。諸外国からの遺跡に対する興味・注目が集まることで、カンボジアの人々は自国の文化に対する誇りと自信を持ち始め、次第に修復への意欲を高める。しかしながら、一方で、環境汚染、子どもへの悪影響も及び、高騰した土地を売って、生まれ育ったシェムリアップの街を離れていく農民もいる。「自分の財産や家族だけを考えて生きていくのではなく、世代を超えた持続的な国の発展を自分たちの力で担っていかなければなりません」。ソティーヴンさんは冷静に見据えている。

●次世代へ繋け

ラターさんは将来カンボジアで大学の教授となり、建築チームを結成して、現場研修へ連れて行きたいと意気込みを語る。現在は、日本語の辞書を片手に大学院の授業にいそしむ毎日だ。ソティーヴンさんは今でも帰国の度に母校で学生たちを相手に、実習を積んだ現場経験者として、自分たちの手による保存修復の重要性を説いている。

●人・自然・遺跡

文化協力とは技術、知識の協力だけでは決して完結しない。人・自然・遺跡が一体となってはじめて、文化として一つの形が浮かび上がる。二人の調査団員から語られた言葉からは、遺跡修復への熱意、継承への自信、また、調査団の人材養成に対する哲学への共感、先生方に向けられている深い尊敬の念が窺いとれた。内戦により断絶されていた、アンコール遺跡に託されたメッセージと人々の願いは、時を経て今一本の線として再び紡ぎはじめたばかりだ。

企画展「アジアの世界遺産と国際協力」 ～アンコール・ワット遺跡から～

アジア最大級の文化遺産であり、壮大な規模、華麗な造形美術などが特色のアンコール遺跡。その美しく雄大な写真約100点を展示します。民族の誇りと伝統の象徴である文化財。そこに込められた祈りや願い、息吹を感じてください。また、今回の特集で取り上げた、上智大学アンコール遺跡国際調査団の活動やその想いを、写真と共に紹介します。

●日 時：7月30日（土）～8月28日（日）

9:00～17:00

●会 場：あーるぶる 3階 企画展示室

●入場料：無料

●協 力：上智大学アジア人材養成研究センター

●問合せ：地球市民学習課

TEL: 045-896-2899 ※月曜休み

■セミナー：展示会場にて、上智大学アジア人材養成研究センターの方から現地での活動や想いなどをお話しいただきます。(全2回、いずれも参加費無料)

①●日 時：7月31日（日）14:00～15:30

●講 師：遠藤宣雄さん（上智大学アジア人材養成研究センター客員研究員）

②●日 時：7月30日（土）14:00～15:00

●講 師：チェン・ラターさん（上智大学アジア人材養成研究センター研究員、日本大学大学院在籍）

■関連企画：カンボジアの歴史・文化講座(参加無料)

●日 時：8月9日（火）15:00～16:30

●場 所：あーるぶる 3階 企画展示室

●講 師：久郷ポンナレットさん（紹介はP4 カンボジア文化講座をご覧ください）

もっと知りたい、カンボジア！

NGO活動、お役立ちwebサイト、イベントなど、カンボジアに関する関連情報を紹介します。

東南アジア文化支援プロジェクト(CAPSEA)

カンボジアの子供への平和教育の活動を行い、今年で10周年を迎える。カンボジア出身の大学講師、翻訳家でもあるペン・セタリンさん（副代表）を中心に、カンボジア留学生と日本人の友達によって設立。平和教育の普及活動を始めるきっかけとなったのは、本格的なPKO活動が始まろうとしている時期、石澤先生の調査に通訳として同行し、たまたま当時の学校の教科書をみたことがきっかけだった。暫定政権設立前の政権の分断と対立の残像がまだ色濃く、それぞれの影響力があった地域では、お互いを「敵」とする内容が残っていた。せっかくの平和を長続きさせたいという切実な思いから、友達を含めた何人かのボランティアで約2万部の教科書をカンボジアへ。ポルポト政権時代には、親と子が隔離され、子供は施設で「国の子」だと偏った教育を受けたこともあり、そうした影響が今でも残っているという。そのため、セタリンさんは現在日本の昔話などの絵本を翻訳してカンボジアに送っているが、「できるだけ親と子や家族の信頼関係を描いたもの」を選ぶようにしているという。また、セタリンさんの平和教育への思いは、各小学校を巡回し、子供達に絵本の読み聞かせや紙芝居を行う移動図書館の支援にも繋がっている。

●<http://www32.ocn.ne.jp/~capsea/>

もっと知りたいカンボジア 知って得するこんな情報

■こんなホームページあります！

- カンボジアウォッチ カンボジア総合情報サイト
<http://www.locomo.org/cambodia/>
- ラスメイカンボジア新聞
<http://www.locomo.org/cambodia/news/index.html>
- 上智大学アンコールワット国際調査団
<http://angkor.skk-inc.co.jp/aboutus/whatsnew.html>

■こんな本あります！

- 『アンコールワットへの道』
文・石澤良昭／文・内山澄夫（JTBキャンブックス）
- 『アンコール・ワットの青い空の下で』
ペン・セタリン著（てらいんぐ）
- ★ 『色のない空』虐殺と差別を超えて
久郷ポンナレット著（春秋社）
- ★ 『対人地雷カンボジア』
写真・小林正典／文・藤原健（毎日新聞社）
- 『地雷を踏んだらサヨウナラ』
一ノ瀬泰造著（講談社文庫）
- ★ 『サニーのおねがい 地雷ではなく花をください』
文・柳瀬房子／絵・葉祥明
- 『クメール語入門』 ペン・セタリン著（連合出版）
- ★ の書籍はあーだ ぶ55ぞで閲覧できます。

■すてきなレストランです！

- カンボジア家庭料理「アンコール・トム」（相模原市）
辛さ控えめで野菜たっぷりのカンボジア料理をどうぞ！
協会提携エスニック・レストランなので協会会員は飲食代金の5%割引になります（ランチ除く）。
<http://www.h5.dion.ne.jp/~angkor-t>

幼い難民を考える会（CYR）

カンボジアの内戦によって難民となった子供たちが少しでも人間らしい環境の中で生活できるように…との願いを込めて1980年から活動をスタート。多くの人々は農村で暮らしているものの、天候に左右される農業では安定的な収入を得ることも難しく、現金収入を求めて出稼ぎにいくことが多い。CYRは、自宅にいながら現金収入を得られる貴重な手段になり、農村女性の経済的自立と伝統文化の保存・復興につながる織物事業を行ってきている。現在では、研修センターを設立し、現地の女性十数人が泊り込みでカンボジアに伝わる伝統的な織りや染めの技術などを学ぶの研修も行う。研修の修了生は、忙しい家事や農作業の合間にぬって製作を続け、カンボジア国内や日本で製品を販売し、その収益は彼女たちの生活の貴重な現金収入に。習得した技術を地域の人々にも伝えることで、戦争で失われかけた自国の伝統文化を伝えていくきっかけにもなっている。

またCYRでは、子ども向けオリジナル教材・遊具の開発、支援も実施。その中でも「歌絵本」は、カンボジアでは誰もが知っているが文字化されていなかった童謡を、レコーダーで丹念に拾い集め製本した人気の教材となっている。

●<http://www5a.biglobe.ne.jp/~CYR/>

カンボジア文化講座

もっと知りたい、行ってみたくなる国、カンボジア！

～料理とお話しを通して～

県内には約1,500人のカンボジア出身の方が住んでいます。料理とお話しを通じて、カンボジアの文化・習慣・食生活について、また人々の生活・思いについて知ってみませんか。

①料理講座（連続3回）

- 第1回：8月2日（火）10:00～13:30
- 第2回：8月9日（火）10:00～13:30
- *午後にトラベル講座実施
- 第3回：8月16日（火）10:00～13:30

②旅行に役立つクメール語講座を含むカンボジア紹介トーク

2005年8月9日（火）14:00～15:00 *午前に料理講座実施

③料理講座メニュー（内容は予定です）

ノム・バン・チョク・サイコー（牛肉そうめん）、チューク・クティッ（バナナ・タピオカ）、スガオー・マリアッ（にが瓜肉詰めスープ）など

●講 師：久郷ポンナレットさん。カンボジア・プノンペン生まれ。1975年～ポル・ポトによる暴政開始により、両親、きょうだい4人を失う。1980年、留学中のお姉さんを頼って来日。現在、平塚市に在住し、在日カンボジア人子女の教育援助や講演などを行っている。著書に『色のない空』2001年、春秋社

●場 所：①あーだ ぶ55ぞ 1階料理室

②あーだ ぶ55ぞ 1階ワークショップルーム

●定 員：①18名（事前申込制、先着順）②20名（事前申込制）

●参加費：①料理講座 10,500円（税込・3回分）*協会会員は9,450円 ②トラベル講座 1,000円（税込・資料代・茶菓代込み）*協会会員は900円

●問合せ・申込み：国際協力課（担当：大塚）

TEL：045-896-2964 FAX：045-896-2945

E-Mail：minsai@k-i-a.or.jp ※月曜休み

*申込みの際にはいずれも「カンボジア文化講座参加希望」と明記してください。

会員のつどい～どなたでもご参加いただけます～

映画「チルソクの夏」上映会



1977年7月7日。「チルソク」は韓国語で七夕のこと。携帯もメールもない時代、日本と韓国が今ほど親しくなかった時代。下関と韓国プサンの間でおこなわれた親善陸上大会に出場した日本人の女の子と韓国人の男の子の出会いと淡い恋の物語。かつて高校生だった人、いま高校生の人、これから高校生になる人に…。

●日 時：8月20日（土）14：00から（13：30開場）

●場 所：あーだぶるど2階プラザホール

●参加費：国際交流協会会員500円

一般1,000円、高校生800円、子ども（中学生以下）500円、前売り800円

*前売りは、あーだぶるどに来場された方にのみ販売いたします。
電話等でのご予約はできませんのでご了承ください。

●問合せ・申込み：企画情報課（担当・キム）

TEL：045-896-2896 ※月曜休み

アートと環境

自然の絵の具で絵を描こう！



あーだぶるど の周辺（本郷ふじやま公園）で土や葉っぱなどを採取し、それらの自然の絵の具で絵を描いてみませんか。土にはその土地独自の色合い、質感があります。どうしてこんな色合いなのか、どう

してこんな質感なのか、地域の皆で自分の身のまわりを振り返ってみよう！また、プログラムの中で描かれた絵は11月上旬にあーだぶるど、いたち川流域、本郷ふじやま公園内の古民家で展示します！

●日 時：8月20日（土）10：00～15：00

●場 所：あーだぶるど1階ワークショッフルーム集合、本郷ふじやま公園解散

●対 象：大人からこどもまで（小学生以上）

●定 員：30名【事前申込制、8月10日（水）より受付開始、先着順】

●参加費：無料

*上記プログラムの運営ボランティアを募集中です。授業に取り入れたい教員の方、プログラムに興味のある方、是非ご参加ください。詳しくはお問い合わせください。

【締め切りは7月20日（水）】

●問合せ・申込み：地球市民学習課（担当：横山）

TEL：045-896-2899 ※月曜休み

地球市民リーダーセミナー

水 はいったいだれのもの？

世界の水をめぐる課題と私たちがつながるには

私たちが生命を維持するために毎日必要な水。その水を私たちは等しく分かち合えているのでしょうか？ また、食糧や工業製品を作るためにも水は欠かすことができません。さて日本に輸入される食料や工業製品を、それを作ることに必要な水の量に換算すると…。

世界の水をめぐる様々な課題を中心今世界を考えると、見落としてきたことに気づきます。

今回は、佐久間智子さん（「環境・持続社会」研究センター）を講師にむかえ、お話を聞きます。そして、水を大量に消費している日本で暮らす私たちにできることを考えます。

●日 時：7月23日（土）13：30～16：00

●場 所：あーだぶるど1階 大会議室

●対 象：NGO活動やボランティア活動に興味がある人、活動に参加してみようと思っている人

●定 員：30人（事前申込制、先着順）

●参加費：無料

●申込方法：電話、FAX、Eメールのいずれかの方法で、(1)講座名、(2)氏名（ふりがな）、(3)所属（学校名や何か参加している団体など）、(4)連絡先（電話、FAX、Eメール）、(5)Eメールアドレスへの講座情報提供の希望有無を下記までお知らせください。

●問合せ・申込み：企画情報課（担当：藤分（ふじわけ））

TEL：045-896-2896 FAX：045-896-2945

E-mail：kikaku@k-i-a.or.jp ※月曜休み

コミュニケーション能力開発セミナー



様々な表現活動を通して、子どもの自己表現を高め、コミュニケーション能力を開発するリーダーのためのセミナーです。ワークショップ形式で、心と身体を動かしながら楽しく学べ、すぐに実践できます。

●日 時：

○セミナーI（探究心遊び・体験型活動の提案）

8月5日（金）、10日（水）13：00～15：30

○セミナーII（身体表現）

8月11日（木）、12日（金）13：00～15：00

●場 所：あーだぶるど1階 ワークショッフルーム他

●対 象：主として幼稚園・保育園児・小学生に関わる教育関係者など、子どもの育成に関わる方

●定 員：25名（事前申込制、先着順、セミナーIIは2日連続参加可能な方）

●参加費：無料（要展示室観覧料）

●問合せ・申込み：地球市民学習課（担当：木下加奈子）

TEL：045-896-2899 ※月曜休み



